

卒業後の生活は？ 特性生かせる場は？

岐阜市で集会

岐阜市橋本町のハートフルスクエア-Gで22、23の両日、「障害のある人たちの卒後を考える交流集会」が開かれた。全国の障害者や保護者、支援団体の関係者ら約100人が、学校卒業後の地域生活や就労の課題、支援策を話し合った。
(小森直人)

障害者の就労考える

全国から100人、意見交換



障害者の就労について意見交換した分科会＝岐阜市橋本町、ハートフルスクエア-G

PO法人共同連(名古屋市の斎藤縣三事務局長が「どうなる障害者の仕事、くらし、そして共生」と題して講演。その後、地域生活と就労の各分科会に分かれて、当事者が意見を交わした。

就労の分科会では県内の保護者が「生活介護の施設に通ってハンガーを作っているが、月千円しかもらえない。近くに就労継続支援事業所もない」と悩みを吐露。参加者からは「障害者が特性を生かして働ける場はなかなかない。自分たちの仕事、くらし、そして共生」と題して講演。斎藤さんも「NPO団体をつくり、役所に清掃の仕事を請け負わせてほしいと働き掛けるのも一案」と同調した。

護の施設に通ってハンガーを作っているが、月千円しかもらえない。近くに就労継続支援事業所もない」と悩みを吐露。参加者からは「障害者が特性を生かして働ける場はなかなかない。自分たちの仕事、くらし、そして共生」と題して講演。斎藤さんも「NPO団体をつくり、役所に清掃の仕事を請け負わせてほしいと働き掛けるのも一案」と同調した。

岐阜市のNPO法人くくる実行委員会が開いた。障害者自立センター。つつかいぼう(吉田美理事長)などです。持つ労働者の割合が3割以上の「社会的事業所」づくりを促すため、支援の法制化を求める運動を展開しているN

美理事長)などです。持つ労働者の割合が3割以上の「社会的事業所」づくりを促すため、支援の法制化を求める運動を展開しているN